

## 3Dデータの活用 技術系職員が学ぶ

### 小松市役所で研修会

小松市の技術系職員のための研修会が、市役所であり、約三十人が建設現場での3D(三次元)データ活用、公共施設の省エネルギー対策について学んだ。写真。

同市長崎町の建設会社「吉光組」の道勇治専務取締役は、ドローンやレーザーキャナーで建設現場の3Dデータを作成する利点を説明した。事前に完成イ

メージが分かるようになり、技術的な問題点を把握できるようにするという。

同市栄町の北陸電力小松支店の社員は、省エネ対策



を伝えた。新型コロナウイルス感染症対策が必要な今年は、換気してエアコンを使う必要があり、電氣量が増える。一気に冷やすより部屋を利用する少し前、エアコンのスイッチを入れて徐々に冷やすと、運転時間は長くなるが、全体の電力消費量は減るといふ。

市は土木、建築、電氣系の技術職員のスキルアップを目的とした研修会を月一度程度開いている。今回は、先進事例を学ぼうと、民間企業から特別に講師を招いた。

(長屋文太)